

ローマ法王に献上

水永水産のオイルちりめん

門川

門川町の水永水産(黒木隆一社長)のオリジナル商品「オイルちりめん」が、ローマ法王フランシスコに献上された。12日に謁見(えつけん)した天正遣欧使節顕彰会が、本県の特産品PRに贈ったという。

同顕彰会は、400年(伊東マンシヨウ)天正遣欧以上前にヨーロッパへ派遣されたという、天正遣欧少年使節の顕彰に取り組んだ。1588年に欧少年使節を記録した本



ローマ法王に献上したオイルちりめんを手にする黒木社長(左)と小木さん(20日)

の翻訳活動などが評価され、謁見が実現した。

謁見の際、県内8事業所の水産加工品などを献上。オイルちりめんは「しらすめんたい」「黒こしょうバジル」「柚子(ゆず)こしょう」の3種類あり、その後の夕食会で西都市のイタリアレストランのシェフが、パスタ料理に使って現地の関係者らに振る舞った。

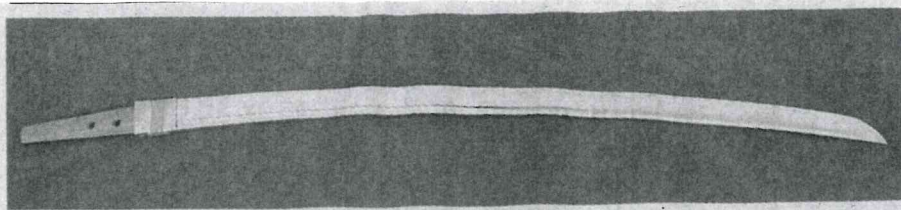
同顕彰会の理事として謁見した小木智彦さん(シニア知的財産事務

所代表弁理士)は20日、水永水産の事務所を訪れ、黒木社長にその時の様子などを報告。「献上品は好評だった。イタリアの人は形に残るものを献上することが多いらしく、日本ならではの食べ物が喜んでもらえた」と話した。

水永水産では、一部商品を香港などでも販売しており、今後は「ローマ法王献上品をPRし、海外展開や、一般向けだけでなく業者向け商品の販売も視野に入れる。

黒木社長は「オイルちりめんは、ご飯にかけたり、パンに乗せたり、サラダに交ぜたり、いろんな使い方ができる。ワインにも合うのでイタリアで

も受け入れてもらえたならうれしい」と話した。



延岡市に寄贈された桐野利秋所有と伝わる刀

西郷隆盛の側近 桐野利秋の刀寄贈 岡田さん(北川町)が延岡市に

延岡市はきょう、同市北川町長井の岡田眞智子さん(81)から、明治10年の西南戦争で薩軍を率いた西郷隆盛の側近として政府軍と戦った、桐野利秋が所有していたと伝わる刀の寄付を受けたと発表した。あすから同町俵野の西郷隆盛宿陣跡資料館で展示する。

寄付された刀は脇差し1振で長さ約52・9㎝、反り約1・5㎝。刀身の茎(なかご)の部分には「備前長船康光(□は欠損)の銘があるが、鑑定の結果、室町時代初期の刀工「備前長船康光」の銘とは特徴などが異なるという。

同戦争最後の激戦とされる「和田越の戦い」に

敗れた薩軍は、北川町長井(俵野)に退き、児玉熊四郎(現・西郷隆盛宿陣跡資料館)に本陣を置いた。桐野利秋は熊四郎邸に近い児玉初治宅(現・岡田さん宅)に宿営。その後、可愛岳突圍を決めた桐野は、宿泊のお礼に刀を初治に贈ったといわれている。

岡田家は児玉家の子孫

で、家と刀を代々守り続けてきたが、NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映などで西郷隆盛や西南戦争、同地域などへの関心が高まる中、「西郷隆盛宿陣跡資料館等の展示資料として有効な活用をお願いしたい」との趣旨で寄付の申し入れがあったという。

瀬川 アユ400万匹前後遡上

五ヶ瀬資源回復か否か 専門家会議で判断

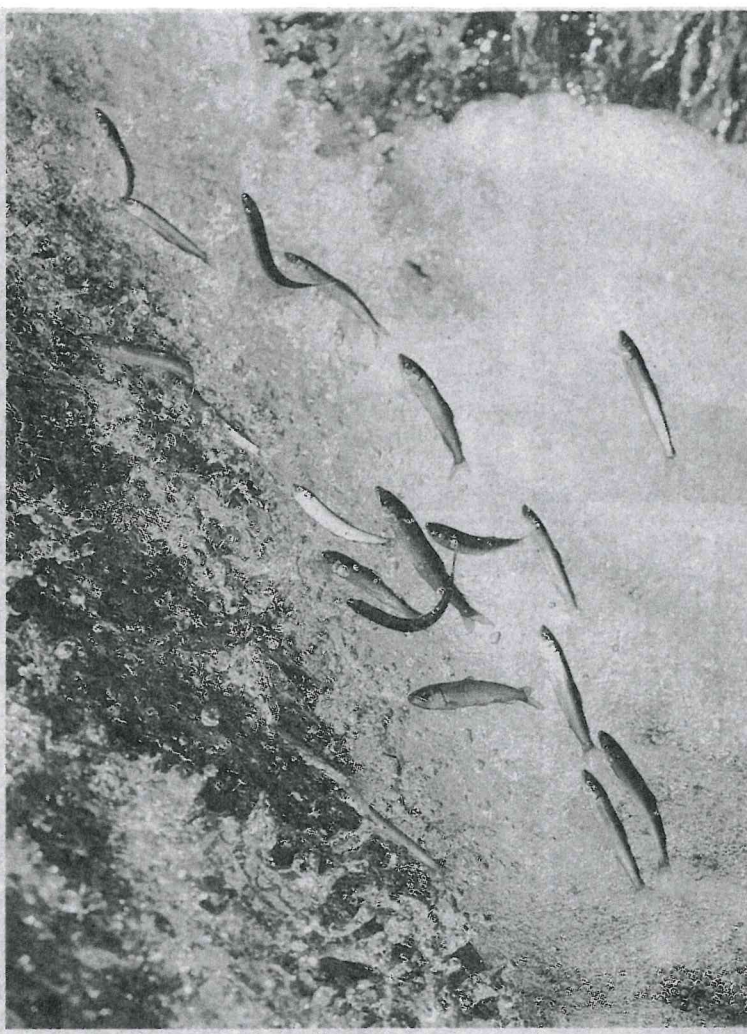
県調査

県は20日、五ヶ瀬川水系のアユ資源について、今年5月の調査で3386万、424万匹が海から川へ遡上（そじょう）したことを明らかにした。

回復となれば延岡湾で実施の稚アユ特別採捕許可停止を解除、未回復となれば、管理を強化する。県水産政策課によると、五ヶ瀬川のアユ漁獲量は1972年の89・3トをピークに減少し、2009、16年は10トを割

り込む。大瀬川、北川、祝子川を含めた水系全体でも15トに届かない年が続く。危機的状況に県は16年11月、「資源回復に向けた取り組み方針」を策定。海産稚アユ採捕業者、内

実行委員会を立ち上げ、21年までの5カ年計画をスタートさせた。2年目の今春まで、延岡湾での稚アユ特別採捕許可を停止。3年目の来春からは停止範囲を門川、日向湾に広げ、水系の瀬掛け漁も禁じる。それでも回復が見られない



五ヶ瀬川を遡上するアユ。3月14日、延岡市の岩熊井堰（いせぎ）で

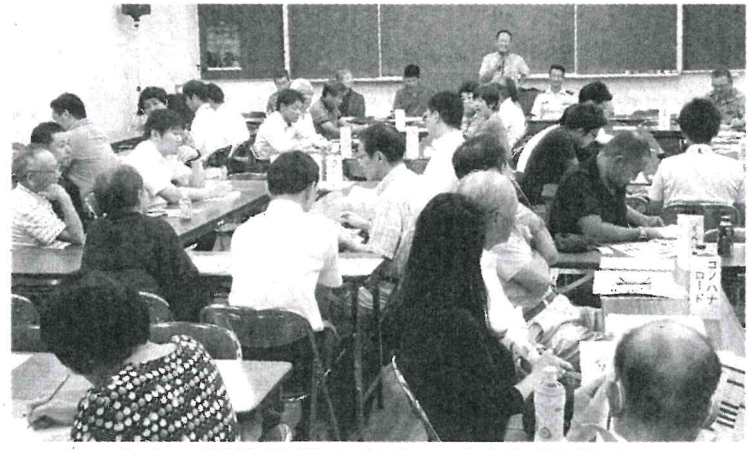
場合は4、5年目と段階的に管理を強化する。この間、資源状況を毎年検証することとしており、今回の調査結果公表はその一環。県は30、40万匹の漁獲のためには、海で育った稚魚の川への適正遡上数として396万匹を掲げるが、5月の調査では前年（126万匹）比約3倍の数を確認した。

一方、ふ化して昨年の秋から冬に海に下った仔魚（しぎよ）数は6億6000万匹で、基準値の99億匹に及ばなかった。しかし、実際には翌年に400万匹前後が遡上しており、海での生き残りが良ければ、基準値の仔魚が必ずしも必要ではないことも分かった。

県は現在、調査結果を管理委員会などに説明中。その後、10月にアユに関する川と海の専門家10人程度による専門家会議を開き、資源が回復したか否かを判断する。回復となれば現行の取り組みは全て終え、新たに資源の持続的利用のための管理を検討。回復していないとなれば、取り組みを続行する。

来年2月
23、24日

このはなウォーク



来春の開催日程などを決めた延岡花物語
実行委員会

延岡市中小企業振興センターで10日に開いた今年度最初の全体会議には65人が参加。開会あいさつの後、部会ごとに分かれての協議は早速熱を帯びた。

影山壽孝アドバイザーから「花物語は、来場者に非日常を提供するテーマパーク。子どもが参加して楽しめるアトラクションが足りない。こみを管理して、日常を見せないようにしなければならぬ」との指摘もあり、今年度は子どもコーナーを設けることを決めた。ほかに「河津桜の夜桜

延岡花物語

野地町堤防がメイン会場

1/2
同10、11日 慧日梅観梅会博は4月6日

延岡市中心部の五ヶ瀬川周辺で行う早春の観光イベント「延岡花物語」の実行委員会が、来春6回目の開催に向けて早くも始動した。日程は、本東寺(松山町)の慧日梅(えにちほい)観梅会が2月10、11日、野地町の堤防をメイン会場とする「このはなウォーク」が2月23、24日、城山で開く「ワイワイグルメ博」が4月6日と決まった。

ライトアップをせひ行い

たい。熱気球を呼んで子どもを乗せたい」と谷平興一実行委員長。野地町の堤防に植えられている河津桜のライトアップは3年前に行った実験で素

晴らしい景観になることが分かっている。熱気球は前回、風のため中止となった。

また「グルメ博」に伴い毎年城山で行われている「ワイワイ花宵物語」では、石垣に映像を投影するプロジェクションマッピングを行う予定という。

今回も堤防に100万本の菜の花を咲かせるため、10月末か11月上旬に種をまく。市外から多くの観光客を呼び込むためPRに力を入れており、今回も2種のパンフレットを段階的に発行する。

12月初旬にはポスターと大まかな内容を印刷した第1弾のパンフを配布し、その後、詳細を記した正式パンフを1月上旬に発行するなどを決めた。今後は、この日程に沿って部会ごとに詳細を煮詰めていく。